

我が校の学ぶ力向上策

甲賀市立多羅尾小学校

一人ひとりを大切に、きめ細かな指導で確かな学力の向上をめざして！

児童の実態と課題（近年の学力・学習状況調査結果より）

- | | |
|-----------|--|
| □学力調査より | ・国語では、文の読み取りや漢字、語彙の習得については定着している。
・文中の言葉をもとに、考えや意見をまとめることがやや不十分。
・算数における説明や証明の記述方法について知識や理解が不十分 |
| □学習状況調査より | ・理科についての知識は定着している。文でまとめる力が不十分。
・家庭学習が時間的に短く、宿題や予習の習慣化がさらに必要である。 |
| □全体的に | ・インターネットやゲーム等に費やす時間が多く、読書習慣が低調である。
・算数の必要性、有効性は実感しているが、自発的に問題解決する意欲は低い。
・基礎学力を日常生活に活用する力の不足
・家庭との連携により読書を含む家庭学習の習慣化と内容の充実が必要。 |



めざす学ぶ力のポイント

- ◎A 基礎・基本（読む力・書く力・四則演算力）の更なる定着
- ◎B 読解力・活用力につながる言語力の向上
- ◎C 家庭学習（特に予習）の習慣化と記述式課題の工夫
- ◎D 自ら学ぶ学習意欲の醸成と教師の指導力の向上

□具体的な学力向上策（短期）

◎Aに係るアプローチ

- 全校児童対象「学力アップタイム」による基礎力の充実（毎週水曜）
- 個に応じたきめ細かな学習の充実
- 日常的な積み上げ学習の継続（ステップアップタイム）
（計算や音読、漢字書き取りの継続的な反復練習、ICTの有効活用）
- 読書時間と読み聞かせの時間の確保
（読書通帳の活用、朝の会利用、親子読書の推進）
- 漢字検定への挑戦
（副読本による自主学習、家庭学習の充実）

◎Bに係るアプローチ

- 「課題把握⇒1人学び（自力解決）⇒交流⇒表現」の学習過程の定着（こうか授業術5箇条）
- 読解力向上のための授業の工夫、教師の指導力向上
- 「活用力」につなげる短文まとめ（200字程度）
- 説明や証明の手法の理解とその定着

◎Cに係るアプローチ

- 「メディアコントロール」による家庭と連携した家庭学習習慣の育成
- 「多羅尾っ子家庭学習レベルアップの巻」を活用した家庭学習規律の確立（ルール、パターンの指導、学年×10～20分の習慣化）
- 文例や文型を示しての記述指導
- 「みんなで読書」等を通じての読書習慣形成や、新聞を読んで考える能力の伸長

◎Dに係るアプローチ

- 学習意欲を持たせる工夫
（「なぜ？」「どうして？」を大切にする授業の構築）
- 総合学習「たらんぼ」とオペレッタの取組の充実
（徹底しためあてとふり返り指導による表現力向上）
- 校内研究会を通して、個々へのきめ細かな指導のあり方の工夫、及びICTを用いた学びの工夫と全教職員の共通理解と実践交流

□長期的な展望

- ★学校司書による読み聞かせやみんなで読書等による本に親しむ習慣づけ
⇒読解力の向上へ
- ★オペレッタ（創作的音楽劇）の継続と素地となるめあて・ふり返り学習の徹底、朝の会や人権の日でのスピーチの継続・充実
- ★言語力の向上に向けた「辞書ひき」活動の継続と書く（まとめ）活動の内容の質の向上
- ★算数への更なる興味関心の醸成と基礎を活用した生活に関連する活用能力の向上

□評価・検証

- 年度初めの児童の現状把握とそれに基づく取り組みの重点の共通理解。（ワークショップ）
- 教育指導部会（学びづくり部会）での検証と改訂
- 校内研究会等での授業を通じた研究および評価、考察
- 各種の学びの振り返りシートの活用
- 次期、見直し予定
平成30年9月～10月